



日刊建設工業新聞

11月20日 火曜日

第19552号

発行所 日刊建設工業新聞社
〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10
電話03(3433)7151 11105://www.decn.co.jp/
©日刊建設工業新聞社 2018
編集 電話03-3433-7161 mail-ed@decn.co.jp
印刷 電話03-3433-7152 mail-sa@decn.co.jp
広告 電話03-3433-7154 ei-adv@decn.co.jp

技術とは何か。「技」とは手を巧みに動かす、ものづくりをする「術」である。問題は「術」である。「術」が忍術、妖術、魔術、奇術、錬金術、催眠術、幻術、呪術、詭術等々の用語に共通していることは、どこか怪しき意図が見え隠れしている。技術とはよからぬ意図が見え隠れする「すべ」なのか。手を巧みに動かす、怪しき意図が見え隠れする術をする者とは手品師、魔術師のことなのか。

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

〈37〉技術の怪しさと禹王の「治水の心」

を作成し「土木技術者の実践要綱」としてまとめている。

る。火薬・ダイナマイトの発明は社会基盤造成に大命をもたらした。しかし、使い手のよからぬ意図が忍び込めば化学兵器を生み出す。気象科学技術は祈り・止めば、戦争の強力な破壊兵器を生み出してき、原子核の科学技術は原子力発電を生み、人類のエネルギーの不足を解消する切り札となったが、使い手のよからぬ意図が忍び込めば原子爆弾・大量破壊兵器を生み出した。生物・遺伝学は難病治療医学の革命をもたらした。人類を病気の悩みから解放させる一方、使い手のよからぬ意図が入り込めば微生物・細菌兵器となってしまう。化学技術ももろもろの化学製品や医薬の発明となり人類文明を飛躍的に発展させた

道、修験道、茶道、書道等々、「道」の概念はいずれも真実を求めて自己を厳しく律しことにあたる「すべ」なのである。技術ではなく、原点のものづくり、「知敬馴」・「技道」への回帰が求められている。青士山士によれば治水学の応用実践編が治水技術であり、治水学の水理学、気象学、地質学、材料構造学等諸学のほか、人間社会に結び付ける経済観念、人心協力のための住民心理を把握しなければならないという。禹王の「治水の心」である。

技術の怪しさを取り除くのが土木の倫理学であり、土木学会は1938(昭和13)年3月青士山士のまとめた草案をもとに信条と要綱

参考文獻・『物語日本の治水史』鹿島出版会(常葉大学教授 風土工学デザイン研究所会長) 週1回掲載

「築土構木」を語源とする土木には変な意図「心はみじんも感じられないが、土木技術となれば途端に怪しくなる。西洋のものづくりの方法を取り入れたところから怪しくなっている。「Engineer in rate」は産むことである。人間に都合のよいもの

を産む術なのである。「Technology」とはテクニクを駆使して要領よくものづくりをする「わざ」なのである。科学技術とは、常によからぬ意図が忍び寄る危険性がある。農耕革命を起した鉄器は文明の母である。刃物は素晴らしい名料理をつくってくれる。しかし、使い手

「術」と同様な概念で、「道」がある。「道」とは人道、王道、武士道、騎士

「道」がある。「道」とは人道、王道、武士道、騎士

「道」とは人道、王道、武士道、騎士

「道」とは人道、王道、武士道、騎士